

第46回埼玉県消費者大会

1,100人が“命・家族・平和の大切さ”を学びました

10月14日、「高めよう、消費者市民力！平和で安心してくらせる社会をつくりましょう」をスローガンに、第46回埼玉県消費者大会が埼玉会館で開催されました。

■実行委員会 26 団体の紹介と委員長あいさつ

オープニングは松山婦人会コーラス部のみなさまより素晴らしい歌声による合唱が3曲披露されました。その後、実行委員会を構成する26団体の紹介が行われ、代表して加藤実行委員長が「平和で豊かな生活を築くために消費者市民の草の根の力が今こそ必要な時はありません、大会で学んだことを力にして地域で話し合い、地域のネットワークをひろげ来年の消費者大会までにまた一歩前進して集まりましょう」と呼びかけました。

■来賓あいさつ

上田清司埼玉県知事よりごあいさついただきました。

■「基調報告」「埼玉県への要請書」等の提案

伊藤恭一事務局長がはじめに、上田埼玉県知事へご臨席の感謝を述べました。「消費者・生活者のくらしが最優先される消費者市民社会を一步一步築いていくこと、誰もが安心して生きていける生活保障政策が求められていること、かけがえのない地球を次世代に引き継ぐために世界の市民が連帯と共生し地球温暖化の防止と核兵器廃絶の運動を広げていくことが重要であること、消費者力の発揮による公正で健全な社会づくりや食の安全性を確保する社会システムの充実が求められていること」等について提案し、拍手で確認されました。



澤地久枝さんが

「いまを、いきいきと生きる」～ひといからはじまる、社会との向き合い方～と題して講演

<要旨>

チリの救出劇を、命の大事さやみんなが力を合わせれば人の命を救うことができるという思いを胸に秘め見ていましたが、同時に、人の「幸せ」「豊かさ」とは何だろうと思いました。戦争当時は、食べ物も衣服もありませんでした。現在、世界では10億人が飢餓状況にあり、子どもが6秒間に1人亡くなっています。今、私たちは恵まれています。そのことを考え私たちは生活しないといけないと思います。豊かさとは、お金で買えるものではなく、丁寧な暮らし方をし、家族を大切にすること、そして、命を守っていくのは今、同じ時代を生きる人間の責任だろろう思います。過去の公害問題の経験から日本は良い知恵をもって中国と話し合うことが大事、また、核兵器廃絶に向かってオバマ大統領の決断に期待したい。半世紀前の日本は、貧困・病気から逃げられない社会でした。今、混乱していますが、国際的に命を大切にする、安全な食べ物を作り続けていくことが課題です。私たちの願いは、平穏にみんなが食べて生活できること、その大前提に平和があるのであり、あの戦争は何であったのか若者にもわかってほしい。そのためにも戦争体験者



には話をしてほしい。何かが変わったら、大きな流れの中で私たちが大事にしている生活や家庭の平和も渦中に巻き込まれていきます。賢い消費者・市民になり、みんなで平和で豊かに幸せに生きていきましょう。

■大会アピール採択

埼玉県農民連の関根さんより提案し、参加者の拍手で確認されました。

多くの参加者でどの分科会も盛り上がりました！

午後は5つの分科会が開かれ554人の参加がありました。助言者の報告、各団体の取り組み、参加者の意見交流・質疑等が行われ、それぞれテーマを深めました。

＜第1分科会：食＞ 220人参加

「食と農の未来を考える」



＜第2分科会：医療・社会保障＞ 125人参加

「身近な問題から考える医療と介護」～明るい老後のために～



＜第3分科会：消費者問題＞ 70人参加

「行動する消費者を目指して」



＜第4分科会：環境＞ 85人参加

「ここまで進んでいる温暖化！」～私たちにできることは～



＜第5分科会：教育・子育て＞ 54人参加

「子どもを惹きつけるインターネット」